

令和4年度
「学生支援」、「学生の受入」、「施設及び設備」に関する
自己点検・評価報告書

令和5年7月



国立大学法人
山形大学



自己点検・評価の概要

自己点検・評価の趣旨

本学が掲げる使命、理念、目標、各種方針を実現するため、教育研究活動等について継続的に点検・評価を行い、改善・向上に努めることを通じて、本学の教育研究等の質を保証し本学に対する社会的信頼をより一層確実なものとするを目的として、平成31年3月に「国立大学法人山形大学における内部質保証に関する規程」を整備したところである。

このたび、上記規程第3条に基づき、令和4年度の「学生支援」「学生の受入」「施設及び設備」に関する自己点検・評価を行ったので、その結果を公表するものである。

自己点検・評価を行った領域

学生支援、学生の受入、施設及び設備

自己点検・評価の方法

各領域を担当する委員会及び部局において活動状況等を点検し、評価を行った。

令和3年度から引き続き、様式の統一や評価基準の明示、客観性の高い評価を実施する観点から、成績評価でも用いられているルーブリックを導入して実施した。

根拠規程

- 国立大学法人山形大学における内部質保証に関する規程
- 内部質保証を推進するための指針 ほか

自己点検・評価の結果

学生支援

(総括担当: 総合学生支援機構)

1. 令和4年度自己点検・評価結果(次項ルーブリックのとおり)

<優れた点>

- 令和4年よりキャリアサポートセンター長をトップとした全学の就職支援体制を構築し、情報共有を行うとともに、総合的な支援を行っている。
- 年々学生の相談件数が増加しているため、対応するカウンセラーを各キャンパスに配置した。

<改善を要する点>

- サークルの活動に対し、経済的な支援を行っているが、外部施設の賃借料等、学生の要望に対し、まだ対応しきれないところがある。

2. 令和3年度自己点検・評価時における改善事項の対応状況

<改善を要する点>

- 満足のできる環境で活動が行えていないサークルに対する支援。

<令和4年度対応状況>

- 安全面を考慮し、老朽化が激しい箇所から順々に整備を行った。

内部質保証ルーブリック／学生支援（総合学生支援機構）

評価項目	自己点検・ 評価実施者	評価基準				判断の根拠	
		I (改善すべき事項がある)	II (概ね適切に実施されている)	III (適切に実施されている)	IV (期待以上に実施されている)		
1	成績不振、留年、休学等、学業の継続に困難を抱える学生を早期に把握し、適切な支援を行っている。	・学部 ・研究科	十分な支援が行われていない事例が発生している。	十分な支援が行われていない事例が発生しているが、改善に向けた検討が行われている。	適切な支援が行われている。	適切な支援が行われており、更に特筆すべき支援が行われている。	各学部の教務担当とアドバイザー教員等が連携し、欠席が続く学生への連絡や面談の実施、成績不振学生への指導等学生へのサポートを行っている。
2	学生の福利・厚生補導、学生寮、体育施設・課外活動施設の整備について、適切な支援が行われている。	・キャンパス ・法人本部	十分な支援が行われていない事例が発生している。	十分な支援が行われていない事例が発生しているが、改善に向けた検討が行われている。	適切な支援が行われている。	適切な支援が行われており、更に特筆すべき支援が行われている。	老朽化が激しく修繕箇所が多いため、順々に整備を行っており、学生寮の空調設備、食堂の厨房機器等の修繕を行ったが、学生会館の空調設備や体育館の床材等、まだ整備が残っている箇所が多くあり、対応を検討している。
3	学生の正課外活動に対して、経済的側面を含めた適切な支援が行われている。	・キャンパス ・法人本部	十分な支援が行われていない事例が発生している。	十分な支援が行われていない事例が発生しているが、改善に向けた検討が行われている。	適切な支援が行われている。	適切な支援が行われており、更に特筆すべき支援が行われている。	サークルの活動に対し、経済的な支援を行っているが、外部施設の借用料等、学生の要望に対し、まだ対応しきれないところがある。
4	経済的事情により就学の継続が困難な学生に対して、適切な支援が行われている。	・法人本部	十分な支援が行われていない事例が発生している。	十分な支援が行われていない事例が発生しているが、改善に向けた検討が行われている。	適切な支援が行われている。	適切な支援が行われており、更に特筆すべき支援が行われている。	入学料免除、授業料免除は予算内で適切な支援を行った。また、民間企業の協力により、昨年度に新たに設けた本学学生向けの奨学金制度により学生への支援を行った。
5	学生の就職活動を支援するために、相談機能と体制を整備し、適切な支援が行われている。	・学部 ・研究科 ・キャンパス	十分な支援が行われていない事例が発生している。	十分な支援が行われていない事例が発生しているが、改善に向けた検討が行われている。	適切な支援が行われている。	適切な支援が行われており、更に特筆すべき支援が行われている。	各キャンパスに就職支援担当を置き、それぞれのキャンパス・学部でOB・OGによる講演会や就職支援プログラムによる各種講座の実施などの支援を行っている。また、令和4年よりキャリアサポートセンター長をトップとした全学の就職支援体制を構築し、情報共有を行うとともに、総合的な支援を行っている。
6	学生生活に関する問題、特に心身の悩みごとを抱える学生への相談に応じる体制を整備し、適切な支援を行っている。	・学部 ・研究科 ・キャンパス	十分な支援が行われていない事例が発生している。	十分な支援が行われていない事例が発生しているが、改善に向けた検討が行われている。	適切な支援が行われている。	適切な支援が行われており、更に特筆すべき支援が行われている。	年々学生の相談件数は増加しているため、対応するカウンセラーを各キャンパスに配置し、対応を行っている。 また、各キャンパスが保健管理センターや障がい学生支援センターと連携し、アドバイザー教員や教務担当が中心となって適切な対応を行っている。

自己点検・評価の結果

学生の受入

(総括担当:入学試験委員会)

1. 令和4年度自己点検・評価結果(次項ルーブリックのとおり)

<優れた点>

- 入学者選抜の基本方針が明確に定められており、入学者選抜方法の変更に応じた見直しが継続して実施されている。
- 学部の入学者選抜においては、適正な入学者数を確保する選考方法が策定できている。
- 選抜区分毎に、アドミッションポリシーに適合した入学者構成となっており、継続して分析が行われている。

<改善を要する点>

- 学士課程の入学者選抜において、一部、問題となる事例が発生した。
- 大学院課程において、一部、入学定員を確保できていない。

2. 令和3年度自己点検・評価時における改善事項の対応状況

<改善を要する点>

- 学部における留学生・編入学者の数や質は適切であったが、一部の学部学科で編入学や社会人の入学者がない状況が見受けられた。
- 一部の専攻で入学定員を満たせない状況が継続しており、改善に向けた取組の実施及びその検証が必要である。

<令和4年度対応状況>

- 学部3年次編入学試験について、一部の学部学科において入学者がいない状況が続いていたが、令和5年度入試から当該学科の募集を停止した。
- 一部の専攻においては、入学定員はまだ満たせていないが、後期課程において、令和5年度に改組を行い、引き続き出願者確保に取り組んでいく。
- 一部の専攻においては、近年の入学者募集に係る需給のバランス及び人材育成の方向性を明確にし、強化を図る等の観点から入学定員を縮小した。

内部質保証ルーブリック／学生の受入（入学試験委員会）【学部】

評価項目	評価基準				判断の根拠
	I (改善すべき事項がある)	II (概ね適切に実施されている)	III (適切に実施されている)	IV (期待以上に実施されている)	
1 求める学生像が明確に定められている。	求める学生像に、不明確な表現が含まれている。	求める学生像に、不明確な表現が含まれているが、改善に向けた検討を行っている。	求める学生像が明確に定められており、カリキュラム・ポリシー等を踏まえた内容となっている。	求める学生像が明確に定められているほか、カリキュラム・ポリシーの改定等があった場合には内容の見直しが継続的に行われている。	求める学生像がアドミッション・ポリシーに明確に定められており、入学選抜要項や学生募集要項で公表している。また、カリキュラムポリシー等を踏まえた内容となっていることから、IIIと判断した。
2 入学選抜の基本方針が明確に定められている。	入学選抜の基本方針に、不明確な表現が含まれている。	入学選抜の基本方針に、不明確な表現が含まれているが、改善に向けた検討を行っている。	入学選抜の基本方針が明確に定められている。	入学選抜の基本方針が明確に定められているほか、入学選抜方法の変更があった場合には内容の見直しが継続的に行われている。	入学選抜の基本方針がアドミッション・ポリシーに明確に定められており、入学選抜要項や学生募集要項で公表している。また、入学選抜方法の変更に応じ内容の見直しを継続的に実施しているため、IVと判断した。
3 入学選抜が適正かつ公正な実施体制のもと実施されている。	適正性もしくは公正性に欠ける事例が発生し、必要な対処が行われていない。	適正性もしくは公正性に欠ける事例が発生したが、適確な対処が行われ、かつ、再発防止のための対策が取られている。	適正かつ公正に実施されている。	適正かつ公正に実施されているほか、適正性及び公正性を確保するための具体的な実施方法が策定されている。	令和5年度入学選抜にて、一部の学部においては問題となる事例が発生したが、実施要領を見直すことや、再発防止対策を構築したことから、IIIと判断した。
4 学部・研究科全体で適切な入学選抜を行う上での十分な志願者数を確保している。	学部・研究科全体で十分な志願者数が確保できていない。	学部・研究科全体で十分な志願者数が確保できていないが、改善に向けた取組が行われている。	学部・研究科全体で十分な志願者数が確保できている。	学部・研究科全体で十分な志願者数が確保できている。かつ、継続して確保するための取組が行われている。	令和5年度入学選抜の志願倍率は、全体で3.31倍（令和4年度は3.12倍）であり、入学選抜を行う上で十分な志願者数を確保できている。IIIと判断した。
5 入学者が適正である。	入学者が入学定員未満である、もしくは基準定員超過率を超過している。	入学者が入学定員未満である、もしくは基準定員超過率を超過しているが、改善に向けた取組が実施されている。	入学者が適正である。	入学者が適正であり、かつ、適正な数とするための具体的な選考方法が策定されている。	令和5年度入学選抜の定員超過率は、全体で102.6%（令和4年度は101.9%）となり、適正な入学者数を確保する選考方法が策定できていたことから、IVと判断した。
6 選抜区分毎の入学者の構成はアドミッション・ポリシーに適合したもの（合格基準を含む）になっている。	アドミッション・ポリシーに適合していない。	アドミッション・ポリシーに適合していないが、改善に向けた取組が実施されている。	アドミッション・ポリシーに適合したものになっている。	アドミッション・ポリシーに適合したものになっており、かつ、適合した状態を維持するための継続的な分析が行われている。	選抜区分毎に、アドミッションポリシーに適合した入学者の構成となっており、継続して分析が行われていることから、IVとした。
7 留学生、社会人、編入学生（該当するものが対象）の数や質が適切である。	数や質が適切ではない。	数や質が適切ではないが、改善に向けた取組が実施されている。	数や質が適切である。	数や質が適切であり、かつ、適切性を維持するための取組（入学者の分析、国外大学・企業等への広報等）が行われている。	留学生・編入学生の数や質は適切であったことから、IIIとした。
8 入学後の学修成果に基づいて入学選抜の検証を行い、改善を図っている。	入学後の学修成果に基づいた入学選抜の検証が行われていない。	入学後の学修成果に基づいて入学選抜の検証が行われている。	入学後の学修成果に基づいて入学選抜の検証が行われ、必要と判断された場合には改善計画が策定されている。	入学後の学修成果に基づいて入学選抜の検証が行われ、必要と判断された場合には改善計画を策定した上で、実際に改善が実施されている。	入学選抜の検証を行い、必要に応じ改善に向けた検討が行われていることから、IIIと判断した。

内部質保証ルーブリック／学生の受入（入学試験委員会）【研究科】

評価項目	評価基準				判断の根拠
	I (改善すべき事項がある)	II (概ね適切に実施されている)	III (適切に実施されている)	IV (期待以上に実施されている)	
1 求める学生像が明確に定められている。	求める学生像に、不明確な表現が含まれている。	求める学生像に、不明確な表現が含まれているが、改善に向けた検討を行っている。	求める学生像が明確に定められており、カリキュラム・ポリシー等を踏まえた内容となっている。	求める学生像が明確に定められているほか、カリキュラム・ポリシーの改定等があった場合には内容の見直しが継続的に行われている。	求める学生像がアドミッション・ポリシーで明確に定められており、学生募集要項等で公表している。また、カリキュラムポリシー等を踏まえた内容となっていることから、IIIと判断した。
2 入学者選抜の基本方針が明確に定められている。	入学者選抜の基本方針に、不明確な表現が含まれている。	入学者選抜の基本方針に、不明確な表現が含まれているが、改善に向けた検討を行っている。	入学者選抜の基本方針が明確に定められている。	入学者選抜の基本方針が明確に定められているほか、入学者選抜方法の変更があった場合には内容の見直しが継続的に行われている。	入学者選抜の基本方針がアドミッションポリシーで明確に定められており、学生募集要項等で公表している。また、入学者選抜方法の変更に応じ内容の見直しを継続的に実施しているため、IVと判断した。
3 入学者選抜が適正かつ公正な実施体制のもと実施されている。	適正性もしくは公正性に欠ける事例が発生し、必要な対処が行われていない。	適正性もしくは公正性に欠ける事例が発生したが、適確な対処が行われ、かつ、再発生防止のための対策が取られている。	適正かつ公正に実施されている。	適正かつ公正に実施されているほか、適正性及び公正性を確保するための具体的な実施方法が策定されている。	令和5年度入学者選抜にて、問題となる事例の報告はなく、作成した実施要領等に基づき、適切に選抜が行われたことから、IVと判断した。
4 学部・研究科全体で適切な入学者選抜を行う上での十分な志願者数を確保している。	学部・研究科全体で十分な志願者数が確保できていない。	学部・研究科全体で十分な志願者数が確保できていないが、改善に向けた取組が行われている。	学部・研究科全体で十分な志願者数が確保できている。	学部・研究科全体で十分な志願者数が確保できており、かつ、継続して確保するための取組が行われている。	令和5年度入学者選抜の志願倍率は、全体で1.18倍（令和4年度は1.19倍）となっており、入学者選抜を行う上で十分な志願者数を確保できており、IIIと判断した。なお、志願者数を確保できていない研究科については、継続的に改善に向けた取り組みを行っている。
5 入学者数が適正である。	入学者数が入学定員未満である、もしくは基準定員超過率を超過している。	入学者数が入学定員未満である、もしくは基準定員超過率を超過しているが、改善に向けた取組が実施されている。	入学者数が適正である。	入学者数が適正であり、かつ、適正な数とするための具体的な選考方法が策定されている。	令和5年度入学者選抜の定員超過率は、全体で100.8%（令和4年度は107.7%）であった。一部の専攻で入学定員を満たせない状況が継続しているが、改善に向けた取り組みが実施される予定であることから、IIIと判断した。
6 選抜区分毎の入学者の構成はアドミッション・ポリシーに適合したもの（合格基準を含む）になっている。	アドミッション・ポリシーに適合していない。	アドミッション・ポリシーに適合していないが、改善に向けた取組が実施されている。	アドミッション・ポリシーに適合したものになっている。	アドミッション・ポリシーに適合したものになっており、かつ、適合した状態を維持するための継続的な分析が行われている。	選抜区分毎に、アドミッションポリシーに適合した入学者の構成となっていることが確認できており、IIIとした。
7 留学生、社会人、編入学者（該当するものが対象）の数や質が適切である。	数や質が適切ではない。	数や質が適切ではないが、改善に向けた取組が実施されている。	数や質が適切である。	数や質が適切であり、かつ、適切性を維持するための取組（入学者の分析、国外大学・企業等への広報等）が行われている。	留学生、社会人の数や質は適切であったことから、IIIとした。
8 入学後の学修成果に基づいて入学者選抜の検証を行い、改善を図っている。	入学後の学修成果に基づいた入学者選抜の検証が行われていない。	入学後の学修成果に基づいて入学者選抜の検証が行われている。	入学後の学修成果に基づいて入学者選抜の検証が行われ、必要と判断された場合には改善計画が策定されている。	入学後の学修成果に基づいて入学者選抜の検証が行われ、必要と判断された場合には改善計画を策定した上で、実際に改善が実施されている。	入学者選抜の検証を行い、必要に応じ改善に向けた検討が行われていることから、IIIと判断した。

自己点検・評価の結果

施設

(総括担当:施設部)

1. 令和4年度自己点検・評価結果(次項ルーブリックのとおり)

<優れた点>

- 全てのキャンパスにおいて、施設に関する法令上の点検、報告を適切に実施するとともに、確認された是正箇所について、応急対応以上の対策を実施している。
- 自主的学習環境について、必要とされる環境(部屋数、座席、設備、利用時間)の確保に努めている。

<改善を要する点>

- 安全性に関する指摘箇所(要是正以外)について、新たに発生する箇所もあり、全てには対応できていない。

2. 令和3年度自己点検・評価時における改善事項の対応状況

<改善を要する点>

- 施設の安全面(バリアフリー、屋外危険箇所)及び防犯面(外灯、防犯カメラ設置等)について、対応が必要な箇所への対策は実施しているが、見直しや検討などを実施する体制を整備する必要がある。

<令和4年度対応状況>

- 異常や危険性のある箇所については、常日頃より警備ならびに環境整備委託業者から情報収集を行い、都度、対応している。一方で全般的な危険箇所等の抽出や把握は十分に出来ていない部分もあり、今後検討する。

内部質保証ルーブリック／施設

総括（施設部）

評価項目	自己点検・ 評価実施者	評価基準				判断の根拠（参考）
		I (改善すべき事項がある)	II (概ね適切に実施されている)	III (適切に実施されている)	IV (期待以上に実施されている)	
1 施設における安全性 (老朽化)に配慮し、 適切な維持管理を行 なっている	・キャンパス	施設の安全性に対し、対応 が行なわれていない事例が あり、学生、教職員及び本 学に損害が生じた。	施設の安全性に対し、十分 な対応ではない事例がある が、改善に向けた取組みが 行なわれている。	施設の安全性に対する取組 みについて、適切に実施さ れている。	施設の安全性に対する取組 みについて、適切に実施さ れており、かつリスクを未 然に回避する予防保全の取 組みなどを行なっている。	<ul style="list-style-type: none"> 施設に関する法令上の点検、報告を適切に実 施している（全キャンパス）。 法令上の点検により確認された要是正箇所 について、応急対応以上の対策を実施している （全キャンパス）。 指摘箇所（要是正以外）について、<u>新たに発 生する箇所もあり、全ては対応できていないた め（IIIではなくII）。</u> 今後指摘箇所について、計画的に改善してい く必要があるため（IIIではなくII）。
2 施設利用における安 全・防犯面に関して配 慮している	・キャンパス	安全・防犯面への対応につ いて、取組み（必要な箇所 の確認など）が行なわれて いない。	安全・防犯面への対応につ いて、具体的な整備計画等 策定に向けて検討が行なわ れている。	安全・防犯面への対応につ いて、具体的な整備計画等 を策定し、計画を実施して いる。	安全・防犯面への対応につ いて、具体的な整備計画等 を策定し、かつ、完了また は早期完了に向けた取組み を行なっている。	<ul style="list-style-type: none"> 施設の安全面（バリアフリー、屋外危険箇 所）及び防犯面（外灯、防犯カメラ設置等）に ついて、対策が必要な箇所の対応検討や対策を 実施している（全キャンパス）。 日常的に、警備及び環境整備業務受注者から 構内の報告を受けている 整備の計画の策定に向けて検討を進めている ため。
3 自主的学修環境に関す ること（学生の自主学 習、主体的な学びを促 すための環境整備）	・キャンパス	自主的学修環境を必要とす る学生が効果的に利用でき るような状態になっていな い事例があった。	自主的学修環境を必要とす る学生が効果的に利用でき るような状態になっていな い事例があったが、改善に 向けた取組がなされてい る。	自主的学修環境を必要とす る学生が効果的に利用でき るような状態になってい る。	自主的学修環境を必要とす る学生が効果的に利用でき るような状態になってお り、特色ある学修環境の構 築により成果が得られてい る	<ul style="list-style-type: none"> 自主的学習環境について、必要とされる環境 （部屋数、席数、設備、利用時間）を確保に努 めている（2キャンパス）。 必要とされる環境を確保している（2キャン パス）。 コロナ感染防止のため、<u>座席を制限している 箇所がある</u>

▶質保証に関して、今後必要と思われる取組み（各キャンパスの現状を踏まえた取組み案）

評価項目1. 法令点検等により確認された指摘箇所（是正指示ではない指摘箇所）の対策について、改善に向けた計画の立案と実施を順次進めていく

評価項目2. 対応が必要な箇所の具体的な整備計画策定と、計画的な対策実施

評価項目3. 学生が必要としている環境の維持のほか、さらに効果的に利用できるような特色のある学修環境の整備への取組の検討など

自己点検・評価の結果

設備

(総括担当:財務部)

1. 令和4年度自己点検・評価結果(次項ルーブリックのとおり)

<優れた点>

- 授業改善アンケートにより学生の意見を整備計画に反映させるなど、各キャンパスにおいて教育のための設備を整備・維持している。
- これまで整備されたシステムを活用し、教材の配布や学生との連絡等、円滑な授業運営が行われている。

<改善を要する点>

- 一部のキャンパスでバリアフリー化の対応体制が十分ではない。

2. 令和3年度自己点検・評価時における改善事項の対応状況

<改善を要する点>

- 一部のキャンパスにおいて、安全対策の状況把握が出来ていない。

<令和4年度対応状況>

- 各室を利用する教職員や日常的な清掃作業を委託している業者から、随時、危険箇所や設備不良等の情報を収集し処置を行うなど、安全性の確保に向けた対応を適切に図った。

内部質保証ルーブリック／設備

総括

評価項目		自己点検・ 評価実施者	評価基準				判断の根拠（参考）
			I (改善すべき事項がある)	II (概ね適切に実施されている)	III (適切に実施されている)	IV (期待以上に実施されている)	
1	教育プログラムを実施する上で必要な設備を整備・維持している。	・キャンパス	十分な整備が行われていない事例があり、教育活動に支障が生じた。	十分な整備が行われていない事例があったが、改善に向けた取組が行われている。	設備整備が適切に行われている。	設備整備が適切に行われており、かつ、継続して整備・維持を行うための将来的な計画を策定している。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善アンケートにより学生の意見を整備計画に反映させるなど、各キャンパスにおいて教育を実施するための設備を整備・維持している。 ・オンライン授業のための教室の整備も昨年度に引き続き行っている。 ・一部のキャンパスで将来を見据えた設備の整備を計画的に進めている。
2	設備における安全性について、配慮している。	・キャンパス	十分な配慮が行われていない事例（対策遅延による設備不良、危険箇所増加等）があり、学生、教職員及び本学に損害が生じた。	十分な配慮が行われていない事例（対策遅延による設備不良、危険箇所増加等）があったが、改善に向けた取組が行われている。	安全性に関する取組が適切に実施されている。	安全性に関する取組が適切に実施されており、かつ、保守や更新についての基本計画が策定され、適切に実施されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・各キャンパスにおいて点検等を行い、順次更新を行っている。 ・一部のキャンパスでバリアフリー化の対応体制が十分でない。
3	情報通信技術（ICTの環境）の整備、ネットワーク機器等の充実に努めている。	・キャンパス	具体的な整備・更新計画を策定できていない。	具体的な整備・更新計画の策定を検討している。	具体的な整備・更新計画を策定しており、計画を実施中である。	具体的な整備・更新計画を策定しており、かつ、早期完了に向けた取組を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・各キャンパスでネットワーク（WiFi等）環境やオンライン授業の整備を行っている。 ・これまで整備されたシステムを活用し、教材の配布や学生との連絡等、円滑な授業運営が行われている。